

公益財団法人 高松宮妃癌研究基金

令和5年度事業計画書

令和5年4月1日～令和6年3月31日

がんに関する研究を奨励助成し、もってわが国の学術振興および人類の福祉に寄与することを目的と定めた定款に基づき、令和5年度事業計画を次のとおり定める。

事業計画の策定については、令和2年初めから3年以上に亘って事業実施に多大な影響を与えてきた新型コロナウイルス感染が日本でも漸く収束の兆しを見せてきた状況を踏まえ、本年度は本来予定の公益目的事業を全て実施することを前提に計画することとする。

1. 研究助成金の贈呈（昭和44年度創設）

がんに関する研究を行う研究者及びグループに対する研究費を助成する。がん研究の進歩、発展に貢献することが大きいと考えられる日本で行う優れた研究を対象とし、1件につき研究助成金200万円を贈呈する。公募に応じた研究者及びグループから原則40件以内を選考する。

2. 高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈（昭和43年度創設）

がんに関する研究において優れた業績を挙げた研究者に対し、高松宮妃癌研究基金学術賞（表彰楯及び副賞500万円）を贈呈する。日本人が日本で行った研究を対象とし、推薦を受けた候補者の中から原則として「基礎」及び「臨床」の各領域から1件（合計2件を上限とする。）を選考する。但し、一方の領域に受賞適任者がいないときは、他方の領域から2件を選考する。学術賞受賞者には、令和6年2月に開催予定の学術賞等贈呈式において研究内容について講演をお願いする予定である。

3. 高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催（昭和45年度創設）

(1) がんに関する講演会及び研究会開催の一つとして、世界各国から著名な研究者を招聘し、重点課題を主題として国際シンポジウムを開催する。本年度の主題は、「環境ががんの発生とクローン進化に与える影響」である。

会 期： 令和5年11月14日(火)～16日(木)

開催場所： パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

組織委員長： 津田 洋幸 博士（名古屋市立大学特任教授）

組織委員： Allan Balmain 博士

(Director, Helen Diller Family Comprehensive Cancer Center, University of California, San Francisco, USA)

石川 冬木 博士（京都大学学術研究展開センター
センター長）

中釜 齊 博士 (国立がん研究センター理事長)
戸塚 ゆ加里 博士 (日本大学教授)
国際シンポジウム事務局長： 武藤 倫弘 博士
(京都府立医科大学大学院教授)
招待演者： 海外から 20 名及び国内から 10 名を予定
討論者： 約 200 名を予定。

シンポジウム終了後、「Extended Abstracts for the International Symposium of the Princess Takamatsu Cancer Research Fund」を編集刊行する。

(2) 本シンポジウムの特別セッションにおいて、中原記念講演を実施する。本講演は、当財団の国際シンポジウムをはじめ学術活動の基盤確立に尽力された故中原和郎博士 (国立がんセンター初代研究所長、第 5 代総長) の功績を称え遺徳を偲ぶ趣旨で行うものであり、当年度の講演者は、令和 2 年度開催予定であった国際シンポジウムで決定された Arthur P. Grollman 博士 (ストーニーブルック大学薬理学部特別教授) を予定している。講演者には、記念の楯と副賞 50 万円を贈呈する。

4. 国際講演会の開催 (昭和 56 年度創設)

がんに関する講演会及び研究会開催の一つとして、がん研究に顕著な業績を挙げた外国の著名な研究者を招聘し、国内 3 か所の研究機関で研究者を対象とした講演を行う。(講演者、時期、場所ともに未定)

講演者候補は次のとおり。

(1) 第一候補

Tyler Jacks 博士
(マサチューセッツ工科大学 コッホ統合がん研究所所長：米国)

(2) 第二候補

Aviv Regev 博士
(ジェネンテック社副社長：米国)

(3) 第三候補

Joan Massagué 博士
(メモリアル・スローン・ケタリングがんセンター スローン・ケタリング
研究所所長：米国)

5. AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成 (平成 19 年度創設)

がんの研究に関する国際交流とその助成として、わが国のみならず世界のがん研究の振興、研究者の激励に多大の貢献を果された故高松宮妃殿下のご功績を広く世界に顕彰するため、米国がん学会 (AACR) との共催で記念講演会を開催する。

講演会は、毎年春の AACR 年会において行われ、講演者には記念の楯と副賞 1 万ドルを贈呈する。

本年度については、選考委員会において講演者の選出手続きが終了し、4 月 14 日から 19 日、フロリダ州オーランドで開催される AACR 年会 2023 において、講演が行われる予定である。

当財団は、賞金を含む運営資金として 300 万円を拠出するとともに、例年同年会に当財団代表者を派遣することとしている。本年度については、当財団を代表し、学術委員会委員の村上善則先生が出席を予定している。

なお本事業は、10 年間の契約の下実施しているが、平成 29 年度に再契約し、10 年間の継続実施を AACR と合意（平成 28 年 3 月 11 日理事会決議）している。

6. 国際シンポジウム開催の助成（平成26年度創設）

がんに関する講演会及び研究会開催の助成として、平成 26 年度以降、日本国内においてがん研究に関する学会等の諸団体が主催し、がん研究の高度化に資する国際シンポジウムに対して助成を行うこととする。（内閣府が公益目的事業 3 として承認済）

<助成先> 日本癌学会が主催する学術総会における AACR との共催
国際シンポジウム

日本癌学会が、令和 5 年 9 月に横浜で開催する予定の学術総会における AACR との共催国際シンポジウムに対し、同シンポジウム開催に必要な費用の一部 500 万円を助成し、後援する。

日本癌学会は、明治 41 年設立の癌研究会を母体として、昭和 16 年に「がん研究の発達を図る」ために設立された学会であり、その専門分野は基礎研究から臨床研究までと幅広く、約 15,000 人の会員を擁するがん分野における日本最古最大の学会である。

7. その他

この法人の目的を達成するために必要な事業として、機関誌「CANCER」の発刊などの活動を行う。

以上